

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0197400120), 法人名 (医療法人アンリー・デュナン会), 事業所名 (グループホーム 優和の郷・信), 所在地 (深川市あけぼの町1番35号), 自己評価作成日 (令和2年11月10日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou\_detail 022\_kihon=true&JigyosyoCd=0197400120-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

バリアフリーに特化した施設であり、上靴を利用せずに靴下のまま生活していただくことで転倒防止や自宅の生活と同じように過ごしていただく工夫をしている。開放的なリビングホールでは、好みに合わせたテレビ番組の視聴が出来るよう声掛けを行い、ゆったりと過ごせる雰囲気作りを努めている。また、金魚や植物を配置し動植物に触れることで安らぎや癒しの提供を図っている。ホールの壁はレクを通じて作成した壁面飾りや季節に合わせた装飾品で彩り、施設内にいながらも季節を感じていただけるような工夫を取り入れている。また、イベント毎に撮影した写真を掲示することで思い出を振り返り、会話のきっかけ作りをしている。居室にはそれぞれ馴染み深い思い出の物を置いていただき、自宅の暮らしと変わらない生活が施設でも出来るよう生活環境を整え、本人の望む暮らしの提供に努めている。普段はホールでテレビを見て過ごすことが多いため、リハビリ体操や足踏み体操、ふまねっ等、楽しく体を動かす機会を設けている。また、お誕生会や季節ごとのイベントレク等、毎月穏やかな日常の中にも楽しみや気分転換が出来る機会を設けている。入浴は天然温泉を利用したお風呂で豊かなお湯をふんだんに楽しんでもらっている。食事準備や掃除等、一緒に家事や環境整備を行い、1人ひとりに役割を持っていただくことで個性を活かし、意欲向上に繋げ少しでも自立した生活が送れるケアを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR深川駅から車で10分、約3kmの近郊にあり、周辺は豊かな田畑が連なった田園地帯で、市内から近いため戸建て住宅も増えており、スーパーやドラッグストアも指呼の距離で店を構えている事から、生活環境の整った地域に立地している。開設は2017年と新しく、同一敷地内の医療法人を母体とした2ユニットの事業所で、隣接してデイサービス事業所も同法人が運営している。医療法人が母体だが、揺りかごから墓場までと称されるぐらい児童施設から障害、高齢者等々の多方面で事業展開しており、古くから空知地区の福祉を担ってきた経緯がある。事業所の建物は平屋で、左右に位置した2つのユニットに計18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優れた点は、医療面の充実が挙げられ、訪問看護と24Hのオンコール体制で繋がりが、隣接した病院の即応性も含め、安心できる医療の提供が利用者や家族の信頼を勝ち得ている。介護面での一人ひとりへの介護丁寧さにも注目したい。施設内では介護者は上履きを利用しない、素足の介護を実践しており、介護員が上履きで居室に入る土足ケアを未然に止め、介護員中心の介護を戒めて実践に臨んでいる。また事業所のお風呂は天然温泉を利用しているが、塩分の強弱による利用者の肌荒れ等について、個々人の特性に応じて都度加水により調整し、その人のための塩度や温度を探るなど個別に徹したサービスが介護の基本となっている。常に利用者目線での介護を徹底し、利用者一人ひとりへのサービスの充実を目指している当事業所の今後と今に、大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念を玄関に掲示し、身分証の裏にも携帯することで常に意識付けを行っている。定期的に行うスタッフ会議でも介護理念の下に適切なケアが行えているか振り返りを行っている。	赤十字の祖、アンリーデューナンの精神を基盤とした医療法人が母体であり、介護事業においても尊厳やその人らしさの3項目を表示し、玄関等に掲げている。職員は常時携帯する身分証に明記し、どのような場でも実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々に運営推進会議へ参加していただいて地域との繋がりを作り、運営について理解と協力を得ている。地域の方々が集まるD'sカフェ等へも参加していたが、コロナの影響により今年は中々交流を持っていない。	地域との交流は広まりつつあり、町内会や近郊との触れ合いも各種行事を中心に行っている。今後はボランティアの募集や育成に努め、地域の福祉的分野を担えるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を知ってもらうきっかけとして母体病院や市役所等にパンフレットを置いてもらっている。施設見学の受入れを行い、実際に普段の生活の様子を見ていただくことで理解を得ている。運営推進会議に参加される町内会の方々に毎月発行しているふれあい新聞を配布し、日々の様子やイベント活動等を知っていただくことで事業所への理解を深めてもらっている。認知症サポーター「チームオレンジ」との連携を図っている。レクで作った制作物を地域で展開している展示会場に出展し、施設のことや活動内容を知ってもらうきっかけとしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容やヒヤリハット、研修参加状況等の報告を行い、家族や町内会の方々から貴重なご意見をいただき、サービス向上に努めている。ホールに掲示してあるイベント時の写真を使い、普段とは違った活動的な場面や表情を見ていただき、施設での生活を報告している。会議録は家族へ郵送する他、玄関やホームページにて誰でも閲覧出来るよう開示している。	運営推進会議は地域や行政、利用者と家族等の出席を得ながら定期開催している。議案も行事や利用者活動内容に留まらずに、事故やヒヤリハットも公表・説明し、また利用者も参加しながら開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、地域ケア会議に出席し、他の事業所の方や包括担当者と情報交換を行い、協力関係を築いている。運営推進会議に包括担当者が出席されるので現状報告を行い、ボランティアスタッフの派遣や認知症サポーター「チームオレンジ」の協力依頼等、積極的に市町村との関わりや連携を取れるよう取り組んでいる。	包括センター主催のケア会議に出席、情報交換や現状報告を行い、また認知症サポーター養成講座の協力、介護保険の申請や疑似解釈の問い合わせ等々と行政窓口と話し合う機会も多くあり、信頼性に富んだ関係が維持されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設置し、3ヶ月に1度会議を行い、検討内容は全職員に向け周知を行っている。日中は施錠を行わずセンサーやナースコールを使い、見守り重視のケアを徹底している。身体拘束防止についての研修会に参加した職員がスタッフ会議で研修報告を行うことで定期的な学習会の場を設けている。	身体拘束虐待防止委員会の指針を定め、3ヶ月に一度開催し、拘束も抑制もない介護の実施について検討を深めている。議事内容については職員へ直近の会議で周知徹底し、見守り重視のケアの必要性やセンサー等々も論議、検討しながら介護現場に臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会を設置し、3ヶ月に1度会議を行い、検討内容は全職員に向け周知を行っている。虐待防止についての研修会に参加した職員がスタッフ会議で研修報告を行うことで定期的な学習会の場を設けている。心理的虐待に当たる言葉掛けにも細心の注意を払い、その都度適切な声掛けが出来ているかスタッフ会議や学習会等で振り返り、対応の仕方について管理者から助言をもらっている。着替えや入浴時に身体観察を行い、内出血や状態変化があった場合は職員間で情報共有に努めている。「認知症安心ケア10カ条」を基に寄り添うケアを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	研修会を通して学びを深め、必要がある場合には連携を図り、適切に活用が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問点が解消出来るよう管理者や主任が十分な説明を行い、入所に向けて話し合いを重ねている。重要事項説明書の内容が変更になった場合は、家族に文書と口頭で説明を行い、理解納得を得られた上で同意書をいただいている。必要に応じて入所前に施設見学を行ってもらい、施設の雰囲気を感じてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、個別におたよりを発行し、日々の生活状況を文面で報告する他、電話や面会時に家族に直接報告する際、家族の想いに耳を傾け、意見や要望を伺う機会としている。玄関にアンケート用紙を設置し、いつでも家族の意見や要望を反映できるよう努めている。普段の何気ない会話や家族から聞き取った本人の望む生活が出来るようサービスの提供に努めている。	利用者一人ひとりの日常や行事、病気の状態等を「グループホーム便り」として個人別に作り、毎月家庭に届けている。また法人の「ふれあい新聞」にも行事等の報告を掲載している。面会時には、家族が要望や苦情を口に出来るよう配慮し、出された意見は論議検討しながらサービス向上に努めている。毎年外部の評価機関を通してアンケート調査も実施し、サービス内容を深めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の引き継ぎやスタッフ会議を通して職員の意見交換を行う機会を設けている。管理者は常に職員とコミュニケーションを密に取り合い、相談しやすい雰囲気や環境作りに配慮している。意見や提案があった場合はサービスに繋がられるよう助言を行い、入居者に寄り添ったケアの提供に努めている。	当面コミュニケーションの徹底から職員との関係性を見直し、相談や提案がしやすい職場を目指している。現状でも定例の会議や日々の申し送り等で職員の意見や提案は受け止めており、個人的な相談についても真摯に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の健康診断や個別面談で体調管理に気を配り、勤務や有休管理も希望に合わせて行っている。得意なことや能力に合わせて仕事を振り分け、活躍出来る場を設けることで仕事に対するやりがいやモチベーションの維持に繋げている。仕事量を考慮し、負担の大きい職員に対しては声掛けを行い、役割分担や個別に作業時間を設けることで無理なく仕事を続けられるよう仕事環境の整備に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に参加する機会を設けたり、定期的に施設内で勉強会を実施することで認知症への理解とケアの向上に努めている。管理者は職員に対し、その場面ごとに応じた適切なケアの仕方をアドバイスするだけでなく、職員それぞれに対応の仕方を考えてもらうことで実践を通して学びを深めてもらう機会としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や研修会に参加する機会を設け、同業者との交流を図り、ケアの向上や施設間の関係作りに努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会や面談を行い、本人と話し合う時間を作り、本人の望む生活の聞き取りを行っている。施設見学を通して施設の雰囲気慣れに慣れただき、入所後は安心して過ごせるよう一緒に過ごす時間を増やしたり、周りの方と早く馴染めるよう席の工夫等を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っていることを理解把握し、施設での生活が家族にとっても安心出来るものとなるよう家族に寄り添い、信頼関係構築に努めている。話しやすい雰囲気作りに気を配り、家族側だけでなく、施設側からも疑問点等を伝えることでお互いに本人を支え合う関係作りに努めている。家族の意思を尊重した支援を心掛け、ケアプランを使い、具体的な支援の方法等を説明することで不安の解消や統一した対応の仕方に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意思を尊重し、求めているサービスと必要なサービスの見極めを行い、必要としている支援に合う施設の提案と紹介をし、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活が送れるよう本人の意思を尊重しながら個々に出来ることを見つけ、日々の生活にやりがいを持つよう役割を持っていただいている。掃除等、一緒に行うことで施設内の環境整備を共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品の購入や受診対応等、入所後も家族と疎遠にならないよう施設に来ていただく機会を作っている。帰宅願望等が続いた場合、電話で声を聴かせてもらったり、面会に来ていただいて、一緒に過ごしてもらっている。家族に会えない時は、本人が不安にならないよう写真やハガキ等の思い出の品を持って来てもらう等、家族の負担が増えない範囲で協力を得て支援出来る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係で現在は面会や外出等を制限しているが、平時は家族以外の馴染みのある方との交流も行っており、家族の協力を得ながら自宅に戻ったり、外出・外食・外泊でこれまでの生活と同じように過ごせる機会を設けている。思い出の品を見ながら話をすることで施設内いながらもこれまでの生活環境を切り離さず継続出来るよう努めている。	家族等の来所時にはゆっくりと語られるように配慮している。利用者の希望を優先し、自宅や仕事先、畑等の思い出の場所や好きだった食べ物、お気に入りのお店屋にも同行し、馴染みの思いが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないよう席の配置等に気を配り、必要に応じて職員が間に入り、安心安全に過ごせるよう努めている。1人ひとりが孤立せず、みんなの輪に入れるよう声掛けを行い、みんなと一緒に楽しく過ごせる時間を大切にしている。新しい入居者が入った時は会話が出来るような人と過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係機関と連携を取り合いながら、必要に応じて家族の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や家族からの情報を基に本人の気持ちを汲み取り、1人ひとりが望む生活や楽しみを理解し、提供出来るよう努めている。	毎日の支援の中から、本人の好き嫌いや望む思いを把握し、職員全員で共有している。最大限本人の意向に沿えるよう努めている。	本人が最後の時間を、どこでどの様に過ごしたいのか等の最終段階での希望・意向に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、より本人本位の生活となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を家族やケアマネージャーから聞き取り、職員間で情報共有することで1人ひとりに合ったサポートへと繋げている。本人が昔の記憶に戻った時に一緒にその時代の思い出を共有し、寄り添ったケアや会話が出来るよう生まれ育った環境や歴史を理解し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録や業務日誌を使い、1日の過ごし方や心身の状態について情報共有に努め、状態変化が見られた場合はその都度、報告を行い適切なケアへと繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変化に応じてケアプランの変更や見直しを行っている。家族との話し合いを持ち、出来るだけ希望に添った計画が立てられるよう努めている。個人記録と一緒にケアプランを綴っており、気付いた点はその都度、ケアプランに組み込めるよう追記して現状に即した計画作成に努めている。	担当の職員から日頃の様子を提起してもらい、カンファレンス会議で家族の希望や医療的観点も取り込みながら介護計画を作成している。記録の際も介護計画が把握できる様に工夫し、また病変や体調の変動等が見受けられた場合は、現状に即した介護計画になるよう変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は食事・水分・睡眠・排泄の記録が一目で分かるよう1枚に収められた用紙を使い、水分補給や排便コントロール等、健康管理にも気を配れるよう情報共有に努めている。個別に服薬のチェック項目を設け、薬の飲み忘れ防止にも努めている。ケアの実践を評価出来る項目もあり、ケアプランにそって日々適切なサービスの提供に努めている。個人記録の他に業務日誌も活用し、特記事項を集約して記入することで職員間の共有の利便性の向上を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に生まれるニーズに対し、状況把握に努め、1人ひとりに合った柔軟な対応を心掛けている。受診介助や買い物代行等、家族の協力が難しい場合は出来る限り施設側で対応し、相互に入居者の支援を担えるよう努めている。飼い猫や家族の宿泊等の受入れを行うことで本人や家族の不安を軽減させ、安心して過ごせるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント時の特別食として市内のお店に出前注文し、楽しい時間を過ごしている。花や緑、自然に触れることで豊かな暮らしを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を尊重しながらも症状に合わせて病院を紹介し、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。受診介助は基本的に家族対応としているが、希望があれば施設側で支援を行っている。受診介助を担うことで協力医療機関以外の病院とも協力関係を築き、急変時や状態に合わせてスムーズな受診へ繋げられるよう努めている。日頃の様子や症状等を医師に正確に伝えるため、職員が同行または文書を手渡し、適切な医療を受けられよう支援に努めている。協力医療機関とのオンライン受診の導入も進めている。	かかりつけ医の受診は、本人や家族の希望を優先し、職員の同行で日常生活の様子を的確に伝え支援している。母体医療機関がかかりつけ医の場合も多くあり、24時間オンコール体制を維持しており、訪看も含め安心できる医療体制で取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護に来てもらい、日々の状況や体調の変化等、気付いた点はすぐに報告相談を行っている。訪問看護師を通じて医師へ相談報告を行うことでスムーズな受診に繋がっている。内服の変更があった場合も報告を行い、副作用や体調の変化等について助言をもらい、職員間で情報共有に努めている。定期的に注射が必要な入居者がいるため訪問看護に来てもらった際に行ってもらっている。24時間オンコール体制を敷き、緊急時はすぐに連携を取り合える体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から体調の変化に気を配り、入退院に必要な正確な情報伝達が行えるよう記録の整備に努め、スムーズな入退院支援に繋がれるよう医療機関との連携に努めている。看護師や地域連携室の相談員と連絡を密に取り合い、退院後すぐに受入れが出来るよう職員間の連携にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活が困難と判断する基準やその場合の対応について契約時に管理者が家族に十分な説明を行い、理解を得るよう努めている。必要に応じて家族と話し合いの機会を持ち、本人の体調や家族の意向にそった施設の紹介を行っている。ACPシートを使って普段の何気ない会話から本人に聞き取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命講習を受講し、AEDの使い方や応急手当について実践練習を通して緊急時に備えた訓練に励んでいる。24時間オンコール体制を敷いており、急変時は訪問看護師と連絡がすぐに取れる体制を整えている。感染症発症時に備え、備品の管理やマニュアルの整備を行っている。入居者の病歴や認知症の症状から突然意識を失う可能性があるということを職員全体に周知し、日頃から緊急時の対応が出来るよう意識付けを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間帯それぞれの避難訓練を行っており、消防署職員の立会いの下、実践力を身に付けている。同日に火災報知機等の防火設備の定期点検を行い、正常に作動することを確認し、不具合がある場合には委託業者に連絡を取り、整備に努めている。緊急連絡網を使った連絡訓練を行い、緊急時に職員間で連携が取れるよう実践的な訓練も取り入れている。非常食や防災グッズの備えも行っており、定期的に在庫数や賞味期限を確認し、必要に応じて入れ替えや買い足しを行っている。	年に2回、緊急連絡網を活用した災害避難訓練を行い、備蓄品を含め不意の災害に備えている。避難先は母体病院としているが、独自の備えとして防災用非常食や冬季用暖房機も整え、自家発電機も検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室にカーテンを取り付け、プライバシーに配慮した環境整備に努めている。個人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けをする際、言葉選びだけでなく表情や声のトーンにも注意を払い、「認知症安心ケア10か条」を基に寄り添うケアを心掛け、信頼関係を築けるよう努めている。	接遇は介護の基本であり、礼節について十分に配慮し介護に携わっている。トイレの出入りのためにカーテンを新たに用意し、プライバシー確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子から本人の好みや希望の把握に努め、理解が得られるよう簡単な言葉掛けを意識し、希望が伝えられるまで傾聴することで自己決定に繋げている。「何もすることが無い」「役に立てない」等の発言があった場合には、思いや希望を聞いて本人が出来ることを提案し、選択してもらうことで好みや希望にそった自己決定への支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムやパターンを把握し、1人ひとりが楽しく安心して過ごせることを一番に考え、本人の望む暮らしの提供に努めている。その時々表情や言動から本人の気持ちを汲み取り、入所前の生活スタイルを尊重し、本人のペースに合わせた過ごし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は家族や本人の意向を聞いて希望があれば、定期的に来てくれる理美容のサービスを利用している。入浴後はドライヤーを使い、きれいにブローして髪形を整えている。着替えは本人の好みに合わせて衣服を選んでもらい、化粧品も自由にしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	漬物作りや調理の下ごしらえ等、食べる楽しみだけでなく、作る楽しみや食べてもらえる喜びを感じてもらえるよう食事作りに携わっていただいている。イベント時は特別食やお弁当の発注を行い、いつもと違った食事の提供で食事の楽しみを作るよう努めている。誕生会では誕生者に好みの物を聞いて食欲増進に努めている。容器を彩り豊かなものに変更し、味だけでなく目からも華やかな印象が感じられるよう工夫を行っている。	食事は味覚だけではなく、作ることの喜びにも利用者参加を求めながら食事支援に携わり、また献立は1か月分作成しているが、行事食や誕生日の食事会、また野菜や果実の差し入れもあり、出前の要望にも応えながら、献立に拘ることなく職員も同席同食で楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やお粥等、1人ひとりに合わせた食事形態で個別に対応している。水分摂取量や食事摂取量を毎日記録で確認し、脱水や栄養バランスにも配慮し、職員間での情報共有に努めている。定期で水分を摂る時間を設けているが、摂取が難しい場合は個別に好みの物を家族に用意してもらい提供を行っている。スプーンやストローを使い、1人ひとりの状態に合わせて提供の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に義歯ブラシや舌ブラシを使用し、毎食後の口腔ケアで清潔維持に努めている。口腔内の状況把握を行い、必要に応じて歯科受診に繋げている。義歯は夜間帯に洗浄剤を使って洗浄し、歯ブラシやコップの洗浄も定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便間隔を把握し、声掛けやトイレ誘導を行うことで失禁なくトイレでの排泄に繋がれるよう支援に努めている。日中と夜間でパッド類の使用の有無を調整し、自立に向けた支援に努めている。内服や心身の状況によりトイレに行くことが困難な場合は、自室にポータブルトイレの設置を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、排泄の誘導も時間で、また仕草やサインを読み取って行っている。食べ物や軽い運動も取り入れて、ポータブルトイレも活用し、自然な排泄になるように排泄の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状や回数を確認し、下剤等でコントロールを行っている。腸が動くよう体操や運動を勧める声掛けもやっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴が出来るよう設定しているが、本人の意思にそって時間帯や曜日は臨機応変に変更している。本人の体調や心身の状況に合わせて足浴やシャワー浴、清拭等に変更調整を行っている。滑り止めマットやシャワーチェアを使い、安心安全な入浴環境の整備に努め、お湯は毎回温泉水を入れ替え、清潔な環境で入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	お風呂は温泉水を利用しており、毎日毎回一人ずつお湯を入れ替えて入浴している。また温泉水は利用者が入るには塩分反応が強すぎるため、各人に即した水との配分を調節し、適切な入浴を楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・睡眠時間、午睡等は本人の生活リズムに合わせて自由にしてもらっている。眠れない方がいれば、話を傾聴し一緒に過ごす時間を持ち、寄り添うケアに努めている。夜間帯は睡眠を優先し、1人ひとりに合ったパッドやリハビリパンツの選定を行い使用することで安心して入眠していただけるよう努めている。部屋の明るさ調節を行い、睡眠環境の整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用をまとめたファイルを使い、職員間で服薬についての情報共有に努め、転倒のリスク等にも注意を払い、事故に繋がらないよう努めている。内服後の心身の変化について訪問看護師に随時報告したり、症状に合わせて医療機関に相談報告を行い、薬の変更や増量等、適切な内服支援に繋がられるよう努めている。服薬時は職員がその都度、手渡して本人と一緒に薬の確認を行い、飲み込むまで見守りを行うことで正確な服薬に努めている。記録用紙の服薬チェック項目を使い、薬の飲み忘れが無いよう確認を行っている。症状に応じて頓服薬を使用し、本人の気持ちが楽になるよう服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中はテレビを見て過ごすことが多いのでホールのテレビでは好みに合わせた番組を録画し、希望に合わせてテレビの視聴を楽しんでもらっている。毎月、誕生会や季節ごとのイベントを企画し、普段の生活の中にも楽しみを持ってもらえるよう催し物の企画提案に努めている。リハビリ体操やレク等を通して筋力の維持、心身の健康保持に繋げ、豊かな実りある生活に繋がるよう努めている。動植物のお世話で安らぎや癒しを得ると共に成長過程と一緒に観察することで喜びや楽しさを共有している。一人ひとりの出来ることを把握し、役割を持っていただくことでやりがいのある日々繋がるよう努めている。家族との交流を楽しみにされている方もいるので面会や電話での会話を家族の協力を得ながら行っている。コロナの状況もあり、現在はなかなか行えていないが、外出する機会として散歩や買い出しに同行するドライブ等を気分転換の一環として取り入れを行っていた。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	コロナの状況もあり、現在はなかなか行えていないが、流行前は外出する機会として散歩や買い出しに同行するドライブ等を気分転換の一環として取り入れを行っていた。受診以外の外出は極力控えているが、希望に合わせてお墓参り等、家族対応で外出の機会を設けている。	季節の外出、桜等の花見や紅葉狩りなど、年間で計画を立て、レクや外出、外食目的などで外気浴に努め、近所や敷地内散歩も多用し、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持は控えていただいているが、所持することで安心される方は家族と相談し、トラブルに発展しないよう注意を払い、支援に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族への電話を希望された場合は、家族の意思を尊重し、事務所の電話を使い、家族と交流を持てるよう支援に努めている。家族からの電話も本人に取り継ぎ、会話を楽しんでもらっている。家族や友人からの手紙や贈り物も受け入れを行っており、直接会えない中でも交流が持てるよう支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を毎日記録管理し、扇風機やクーラーを使い、過ごしやすい環境を心掛けている。車椅子やシルバーカーを利用している方がいるので動線が確保出来るよう整理整頓や家具の配置にも気を配っている。共用スペースでもゆっくと過ごせるようホールのソファや食卓テーブルの配置を入居者の変化に応じて並び替えを行う等、入居者たちが快適に過ごせる工夫を日々の変化に応じて臨機応変に行っている。光に敏感な入居者がいた際、窓が背になるよう食事の席を決めたり、ホールの照明を調節し、不快な思いをしないよう対応をしていた。季節に合わせて植物を入れ替えたり、イベント時の写真や装飾品で彩り、施設内にいながらも季節感を感じられる工夫とホールの印象が明るくなる工夫を心掛けている。	敷地を十分に活用したゆったりとした、寛げる事を重視した造りで、食堂と居間は広くかつ明るく、温度も湿度も適切に管理されている。当事業所内部は履物を使わない方針で、素足や裸足等で家庭的な雰囲気そのまままで生活をしている。また特筆されるのは建物の隅々まで磨き上げられ、清潔で衛生的な状態を開設以来維持されており、この職員の努力が居心地の良い介護として実践に活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が隣に座れるようホールのソファの配置を変更する等、1人ひとりが過ごしやすい居場所作りの工夫を行っている。量みのスペースや1人掛けソファも配置しており、各々に好きな場所で過ごせるよう工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みある家具や思い出の写真等を置いてもらい、今までの住み慣れた環境や安心して暮らせる環境の整備に努めている。週に1度寝具交換と居室清掃を行い、清潔な環境作りにも気を配っている。1人ひとりに合わせてベッドや家具の配置替えを行い、居心地の良い空間の提供に努めている。各居室にナースコールを設置することで職員がすぐに駆け付けられる環境を整え、安心安全を保障しつつ、居室での1人の自由な時間の確保にも気を配っている。	利用者の居室には介護用のベットやたんず類も事業所が用意設置しており、他にも昔からの使い慣れた馴染みの小物等が自宅より持ち込まれ、過ごしやすい自分の部屋となる工夫が見られる。またナースコールも各室に用意され、安心できる工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで整備され、段差が無いため、移動や歩行時の転倒防止に配慮されており、転倒リスクの軽減に繋がっている。手すり・クッションフロア・センサーライトで安全を確保し、凸面鏡やセンサーを使い、職員の見守りの強化も行っている。歩行状態に合わせてシルバーカーの利用を提案し、自立した生活が送れるよう努めている。居室やトイレの場所、ドアの開閉方向が分かるよう目印や名前を張り、迷わない工夫も行っている。		